

# Interview #10

\*2026年3月インタビュー

2026年3月所属：生命農学研究科 応用生命科学専攻  
(日本学術振興会特別研究員・東海国立大学機構次世代リサーチャー)  
2026年4月所属：名古屋大学生命農学研究科 ポスドク



## 生命農学研究科 清 日香 さん

■ これまでやってきた研究の概要を教えてください。

私は、尿に含まれる細胞外小胞と細胞死機構の2つをテーマに研究してきました。細胞外小胞については、その中身を解析することで糖尿病性腎症の早期マーカーを見つけることを目指していました。この分野はすごく複雑なので、タンパク質の網羅的解析やシングルセル解析、さらにコンピューターサイエンスと組み合わせた解析などを使って、少しでもその複雑さを理解しようとしていました。もう一つのテーマである細胞死機構では、フェロトーシスという現象に注目していました。まだ完全には分かっていない分野なのですが、研究を進める中で、偶然フェロトーシスに耐性を持つ細胞が手に入りました。それをきっかけに、「この耐性の仕組みを解き明かせば、フェロトーシスそのものの理解につながるのではないか」と思って、そこから解析を進めていったという経緯があります。どちらも応用というよりは分子メカニズムに焦点を当てた基礎研究で、ミクロな現象を深く見られるところが面白いなと感じていました。

■ この春からはどういう仕事をする予定ですか？

この春からは研究員として、今所属している研究室で研究を続ける予定です。企業への就職も一度は考えたのですが、いろいろ見たり考えたりする中で、最終的には「やっぱり自分の好きなことをやりたい」という気持ちの方が強くなってしまって、もう少しアカデミアで頑張ってみようと思いました。同じ研究室に残れることになったのは、指導教員の研究費の支援があったことが大きいですし、日頃の研究への取り組み方も見ていただいていたのかなと思っています。特別なことというよりは、地道に研究に向き合ってきたことがつながったのかなという感覚です。

■ キャリアに関する考え方や、進路選択のプロセスは？

進路についてはかなり悩みました。アカデミアに残るか、企業に行くかというところで迷っていた時に、キャリア相談室を利用して相談させていただきました。自分が悩んでいることをそのまま話すだけでも気持ちが整理されましたし、考えるためのヒントもいただけて、すごく助けられたなと思っています。また、企業と博士人材の交流会に参加して企業の方と直接お話ししたり、企業に進んだ先輩のお話を聞いたりしたことも大きかったです。アカデミアにいただけだと企業の働き方がなかなかイメージできないのですが、実際に話を聞くことで「企業で働く自分」を具体的に思い浮かべることができました。そのうえで、今の自分にはどちらが合っているのかを考えて、今の進路を選びました。

■ キャリア形成にあたって活用したこと、在学中に経験してよかったことを教えてください。

在学中にやってよかったと感じているのは、論文執筆や国際学会での発表など、自分の研究を英語で発信する経験です。私はもともと英語が得意ではなかったのですが、国際学会で発表する機会があって、そこでしっかり伝えるために準備を重ねたことは大きな経験になりました。英語力ももちろん大事だと思うのですが、それ以上に「どうすれば相手に伝わるか」を考えるロジックの部分が重要だと感じています。最初からできたわけではなく、少しずつ試行錯誤しながら身につけていった感覚です。こうした力は、アカデミアに残る場合だけでなく、企業に進んだ場合でも生きるのではないかと思います。

## ■ 博士課程での葛藤や、それをどう乗り越えましたか？

博士課程の前半は本当にうまくいなくて、特にフェロトキシスの研究では、なぜ耐性があるのかが全然分からず、1年くらいずっと停滞していました。いろいろ試しても同じところをぐるぐるしている感じで、正直かなり焦っていたと思います。

それでも続けてこられたのは、「なんでこうなるんだろう」と考えること自体の面白さがあったからだと思います。うまくいかない中でも、少しずつ手がかりが見えてくる瞬間があって、それが次につながるという感覚がありました。時間をかけてきた分、途中でやめたくないという気持ちもありましたし、最終的に結果が見えてきたときは、ラッキーだったなと思う部分も含めて、続けてよかったと感じました。

## ■ 後輩たちにエールをお願いします。

まず進路については、判断材料を増やすことが大事だと思います。アカデミアにいと企業のこと分かりにくいので、キャリア相談室を利用したり、交流会に参加したりして、実際にいろいろな人の話を聞くことで、自分の中のイメージがだいぶ変わると思います。そうやって選択肢を広げていくことで、どちらの道を選んだとしても納得できる決断ができるのではないかと思います。

一方で、博士課程で過ごす時間そのものもとても貴重だと思っています。自由に研究に向き合える期間は限られているので、その時間の中でしっかり考えて、試行錯誤する経験は、どの道に進んでも生きてくると思います。

私自身も最初から何でもできたわけではなくて、できないなりに少しずつ積み重ねてきました。不安もあると思いますが、まずは目の前のことに向き合ってみると、少しずつ道が見えてくるのかなと思います。